

# 僕は兄さんだ

小川未明

青空文庫



「お母さん、ここはどこ？」

お母さんは、弟の赤ちゃんに、お乳を飲ませて、新聞をごろんになっていましたが、義ちゃんが、そうだったので、こちらをお向きになって、絵本をのぞきながら、

「さあ、どこでしょう。きれいな町ですね。義ちゃんも大きくなったら、こんなところへいつてごろんなさい。」と、おっしゃいました。

「お母さん、この大きなお魚は、なんというの？」と、義ちゃんが、またきました。お母さんは、

「このお魚ですか。これは、たらといて、北の寒い海にすんでいますよ。」と、おっしゃいました。義ちゃんが、お父さんから買っていただいた、絵本をねっしんに見ていますと、もうお乳をたくさん飲んだ赤ちゃんは、こちらを見て、不思議そうな顔つきをして、きれいなご本を見ていましたが、かわいらしい手を出すと、ご本をしっかりとつかんでしまいました。

「お母さん、たいへん、僕の大事なご本を繁さんが、取ってしまった。」と、義ちゃんは、わめきました。

お母さんは、びつくりして、どうかして、小さな繁さんの手をご本から離させようと思いました。が、なんととっても繁さんは、はなしませんでした。

「いい子だから、義ちゃん、すこしかしておいてくださいね。いまじきにはなすから。」と、お母さんは、おっしゃいました。

繁さんは、ご本をめずらしそうにながめていましたが、そのうちこれをお口に入れてなめようと思いました。

「あ、お母さん、なめますよ。僕、もうきたなくしちゃったからいやだ。」といって、無理にそのご本をひったくりました。すると、今度、赤ちゃんは、大声を上げて泣き出しました。お母さんは、お困りになりました。

「さあ、チンチンゴーゴーを見てきましようね。」と、泣き叫ぶ、赤ちゃんを抱いて立ち上がられました。

「お母さん、どこへゆくのか？」と、義ちゃんは、もはやご本どころではありません。それよりも、やはりお母さんといっしょに、電車を見にゆきたかったのです。

「繁さんが、きげんを悪くしたから、すこし外へつれていってくださるのですよ。あなたは、お家に留守をして、ご本を見ていらつしやい。」と、お母さんは、おっしゃいました。

義ちゃんよしは、自分じぶんがわるくないのに、なぜこんな結果けっかになったのだろう。ご本ほんを見ることよりは、お母さんかあとごいっしょに、外そとへいつてみたほうが、どれほどおもしろいかしれぬおもと思おもいましたから、

「いやだ、僕ぼくもいっしょにゆくんだよ。」と、義ちゃんよしは、泣なき出しそうになりました。  
 「困こまりましたね。じゃ、あんたもいっしょにいらっしやい。ご本ほんをちゃんとしまっておいでなさい。」と、お母さんかあは、おっしやいました。

外そとへ出ると、冬ふゆの日は、暖あたたかそうに枯かれ草くさを照てらしていました。ある家いえの横よこを通ると、前まえの圃はたけにさくがしてあつて、鶏にわとりがたくさん遊あそんでいました。

もう、お母さんかあに抱だかれています、小さい弟おとうとの繁げんさんも、後あとからついてきた、義ちゃんよしも、うれしそうな顔かおつきをして、元氣げんきでありました。しばらく立たち止どまって、鶏にわとりの遊あそんでいるようすを見ていますと、けんかをせず、一つの餌えを見みつけても、たがいにつつき合あって、仲なかよくそれを食たべていました。

これを見みた義ちゃんよしは、

「お母さんかあ、おりこうの鶏にわとりさんですな。」と、感かん心しんして、いいました。

「それごらんなさい。赤あかちゃんちいは、小さいのだから、氣きに入いらぬことがあつても、しかつ

てはいけませんよ。」と、お母<sup>かあ</sup>さんは、おつしやいました。なんにもわからない、小さい繁<sup>しげる</sup>さんは、ただ、鶏<sup>にわとり</sup>の動くのを見てうれしそうに、きやつきやつと喜<sup>よろこ</sup>んでいました。

それから、町<sup>まち</sup>へ出て、電<sup>でん</sup>車<sup>しゃ</sup>を見<sup>み</sup>ました。

「チンチン、ゴーゴー。」といつて、赤<sup>あか</sup>ちゃんは、いつまでも帰<sup>かえ</sup>ろうとはしませんでした。義<sup>よし</sup>ちゃんも、早<sup>はや</sup>くお家<sup>うち</sup>へ帰<sup>かえ</sup>つてご本<sup>ほん</sup>が見<sup>み</sup>たくなりました。やがて、帰<sup>かえ</sup>つてから、赤<sup>あか</sup>ちゃんが、義<sup>よし</sup>ちゃんの大事<sup>だいじ</sup>なおもちやや、ご本<sup>ほん</sup>をいじつても、いままでのように怒<sup>おこ</sup>らずに、笑<sup>わら</sup>つて見<sup>み</sup>ていましたから、

「なんて、義<sup>よし</sup>ちゃんは、いいお兄<sup>にい</sup>さんでしょう。」と、お母<sup>かあ</sup>さんは、おほめになりました。「そうだ、僕<sup>ぼく</sup>は兄<sup>にい</sup>さんだもの。」と、義<sup>よし</sup>ちゃんは、はじめて強<sup>つよ</sup>く心<sup>こころ</sup>に思<sup>おも</sup>いました。

# 青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

※表題は底本では、「僕《ほく》は兄《にい》さんだ」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2012年5月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 僕は兄さんだ

小川未明

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>